

遊水地 コメ試験栽培

矢吹に「ほ場」

国が調査、営農探る



ほ場に水を注ぐポンプの音の響き、田んぼに水が注がれる様子を見守る仁井田さん（左から2人目）ら。試験栽培を始めていく。

4月25日午後、矢吹町

遊水地は大雨などの災害時に河川の水を一時に蓄える機能があるため、公営などに使われることが一般的で、農地利用は認められていない。しかし、阿武隈川の下流域内には田んぼが点在し、農地利用が認められ、稲作が営まれている。阿武隈川の下流域内には田んぼが点在し、農地利用が認められ、稲作が営まれている。

国土交通省は本年度、東日本台風を受けた阿武隈川の緊急治水対策として、鏡石、矢吹、玉川の3町村に整備する遊水地の計画区域内でコメの試験栽培に着手する。国が管理する遊水地での農地利用は、町村の要望で制度改正された経緯があり、試験栽培は全国初とみられる。早ければ大型連休明けから矢吹町のほ場に栽培を始める方針で、熟年が「水や土壌の変化が収穫量や品質に与える影響を調べ、今後の農地の可能性を探る」。



遊水地 川からあふれた水を一時にためて川の水位を下げ、流域の水災害を軽減する施設。鏡石、矢吹、玉川の3町村では2019年の東日本台風で阿武隈川が氾濫し、甚大な被害が出たのを機に、国土交通省が整備を決めた。約350ヘクタールにわたって整備。国交省は遊水地の完成後、農地のクレーンロードなどで利用する案を示している。

遊水地は大雨などの災害時に河川の水を一時に蓄える機能があるため、公営などに使われることが一般的で、農地利用は認められていない。しかし、阿武隈川の下流域内には田んぼが点在し、農地利用が認められ、稲作が営まれている。阿武隈川の下流域内には田んぼが点在し、農地利用が認められ、稲作が営まれている。

遊水地で試験栽培開始 矢吹

国土交通省は、東日本台風を受けた阿武隈川の緊急治水対策として、鏡石、矢吹、玉川の3町村に整備する遊水地の計画区域内でコメの試験栽培を始めた。矢吹町では15日、栽培を担当する仁井田健さん（63）と玉川村の3人が作付けした。国が管理する遊水地での農地利用は、3町村の要望で制度改正された経緯があり、試験栽培は全国初とみられる。



試験栽培用のほ場にコシヒカリの苗を植える仁井田さん

試験栽培は本年度から数年間行い、2028年度に完成予定の遊水地整備後の営農に向けた知見を蓄える。遊水地整備後の環境に近づけるため、数回掘り下げた土地に整備したほ場で実施する。コメの生育状況や土壌の状態などを記録し

て収穫量や品質に与える影響などを調べるほか、仁井田さんが耕作するほかの水田ともデータを比べる。仁井田さんはこの日、水が張られた約21ヘクタールの田んぼにコシヒカリの苗を植

えた。国交省の担当者は「環境が変わっても耕作できるかを調べる。地元住民に営農を判断してもらうための情報を集めたい」とし、仁井田さんは「土壌は軟らかいが水持ちが良く、栽培は大丈夫だ」と思う。関係機関と情報を共有しつつ生育を確かめたい」と語った。

福島民友新聞
令和7年5月16日